

かわらばん

妻入り

事務局

新潟県出雲崎町

教育委員会

☎0258-78-2250

FAX 78-4559

ごあいさつ

会長 渡辺 常侃

鈴木会長の死去のあと、佐々木副会長がその職を代行してまいりましたが、この度、平成十五年度の総会において、会長の職に就任することになりました。

故鈴木会長のこの会に寄せる思い入れは、誰にも真似の出来ない強いものでした。その職責を継いで全うするには、底知れぬ努力を必要とします。どうか、協議会会員の方と住民の皆様方からの温かいご協力の『輪』のもとで、この会を進展させたいものと思っております。よろしくお願い申し上げます。

さて、ここ近年私たち『妻入りの街並』の各玄関先には、木枠のブランターが目につくようになりました。Kさんのお宅も、そのお隣さんでも、シャリンバイや赤花マンサク、ヒイラギ南天などが皆さんの手で日々大切に育てられて、より美しい街並を呈しています。

また各町内には、趣深い木材に黒字で町名の入ったプレートがかかっており、更に要所々には、ユニークな「おもしろ看板」が道行く人の足を思わず止めています。各家庭には、広報「かわらばん妻入り」が配付されており、毎年行われる歴史の道ウォークや街並講演会等々、思えば皆さんのご理解とご協力により進めてまいりました

この協議会事業も八年目になっていくということに今更ながら驚いています。

最近の新聞に、国土交通省では、歴史ある街並や自然豊かな景観を総合的に保全し形成する、機能より景観重視の「景観基本法案」を

来年の通常国会に提出するとありました。景観に配慮する考えを広

げ、個性的な地域づくりを後押しするのが狙いとのことでした。一方

出雲崎町も合併の波に乗り、既に与板町、和島村との法定合併協議会が設置され、社会情勢は大変革

しようとしています。「みんなでつくる出雲崎の妻入りの街並」を住民の合言葉にして、ここまできた

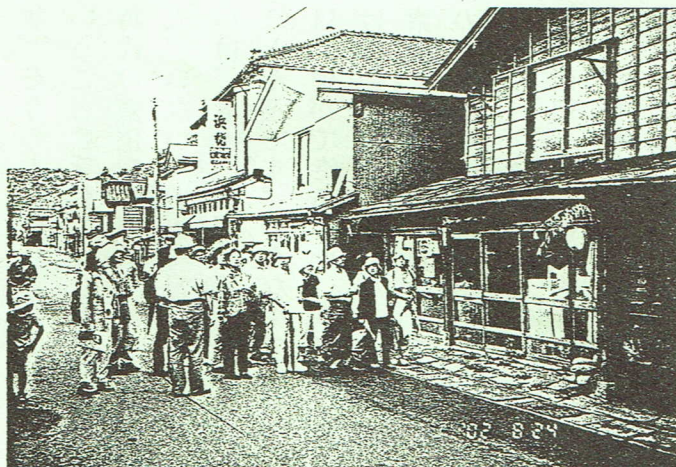
私たちは、今後も魅力ある歴史豊かな街並景観づくりに、合併後も前進しなければならぬと思いま

す。それには充実した事業を行い、実績を積み、行政の後押しと共に、

ここ出雲崎町に住む住民の皆様のご理解とご協力のほか絶対により得ないことであります。

どうか、皆様と共に歩める協議会でありたいと思います。今年度も、数多くの事業を行います。住民の皆様のご希望、ご要望等何でもお寄せ下さい。お待ちしております。

何とぞ、よろしくお願い申し上げます。



妻入りの町並に

故郷を思い出す

出雲崎中学校

校長 岩根 卓司

朝、六時半に出雲崎に向けて関屋を出発。四〇二号線、越後七浦シーサイドラインをひたすら走る。海の向こうの佐渡島を眺めながらの通勤は、佐渡島生まれの私にとって眺めのいいものである。所々でのんびりと魚釣りをしている釣り人を見ると、うらやましくも感じる。寺泊を過ぎ、山田地区を過ぎると、遙か向こうに出雲崎が見える。あつという間に出雲崎に着く。出雲崎の妻入りの町並を左手に眺めながら、木折町から石井町へと進む。その時故郷、両津市の湊町の町並が思い出された。

から、「なんと変わった家の作りだな」と感じた。その当時はこういう家並を「妻入り」ということを知らなかった。出雲崎に来て分かった。そして友達のお母さんから、そうめんをご馳走してもらったことが今でも思い出される。

このように出雲崎に赴任して思うことは、佐渡島に似た風景があたりこちらに見られるということである。戸数は出雲崎ほどではないが、妻入りの街並は、その一つである。また展望坂から眺める風景は、多少、佐渡金山から下るとき相川の街並を眺めているようにも感じる。さらに妻入りの街並を歩くと、高齢者が元気に働いている姿と空き家も目立つ。これもまた佐渡島に似た風景である。

「繁盛の港なり、町の長さ一里余もあるべし、前は海、後ろは山にて町はいたつて狭し」と記された約二百年前の妻入りの街並は貴重な風景である。ぜひ、後世まで残してもらいたいものだと思って

いる。



「妻入りの街並」に賑わいを

出雲崎尼瀬郵便局

局長 山崎 裕子

この四月から、出雲崎尼瀬郵便局に着任しまして、三カ月が過ぎました。私は、生まれも育ちも寺泊町、現在は、与板町ですので、出雲崎町も同じ三島郡ということもあり、とても身近に感じられました。海育ちの私にとって、海を見ながら通勤できるのがうれしくて、毎日、潮風を浴びながら、さわやかな気分です。寺泊町に住んでいた私にとって出雲崎町は、同じ漁業の町というイメージしかありませんでした。ところが、尼瀬にきて、江戸時代に越後の人口密度を誇った町、政治、経済、文化の中心として栄えたところと知り、歴史の偉大さに驚きました。と同時に、皆さんがしつ

かりと受け継いで、「妻入りの街並」を今も大切に残されているということに感動しました。今は、時代の変化で、家は、あつても住人がいない、老人夫婦だけ、あるいは、老人一人暮らしという家がほとんどです。そんな中で、私達は、何ができるのか、何をしていけばいいのか、正直なところ、模索中ではないかと思えます。尼瀬のお年寄りには、皆さんお元気で、やさしさ、人情にあふれ、情緒ある、由緒ある雰囲気を感じていただきます。郵便局も、皆様に喜んでいただけるよう、そして、この街並に合せて変えていきたいと思っております。「天領の里」には大勢観光客が訪れます。その人達に、「妻入りの街並」を散策してもらえようと思えます。歩いてみて発見できること、すばらしいことがきっとあるはず。私自身、まだまだ勉強不足ですが、この街並が好きです。縁あってこの地域

の皆さまと出会えたことをうれしく思っています。出雲崎の夕日と共に、街並は、これからも昔の面影を残しつつ、活気ある賑わいが訪れますよう切に願っております。

妻入りの町 (十九)

住吉町 磯野 猛

人物往来 (四)

大正二年(一九一三)十月八日、佐藤耐雪さんの招きで、出雲崎へ訪れた俳人の高浜虚子先生は、耐雪宅でくつろぎ、耐雪さんの案内で町内の名所を見物しました。

その夜、尼瀬にあった町立の図書館で俳句に関する講演会が開かれ、予想外の聴講者が多数集まり盛会であったそうです。

翌日は、耐雪宅で俳句の会が開かれ、近郷からも参加者があり、虚子先生作品も残されました。その夜は、魚徳亭で歓迎会が開かれ、翌十日、耐雪宅から富山へ出

発されました。

虚子先生は、『ホトトギス』という俳句中心の本を出して多くの人々を世に送り出した日本の伝統俳句の第一人者です。夏目漱石の作品『吾輩は猫である』が発表されたものも『ホトトギス』誌上でした。この時代まだ「良寛堂」は、建立されておりましたので虚子先生は、良寛のことを知っておられましたが、残念ながら良寛堂を見ることが出来ませんでした。大正十三年(一九二四)九月十一日、かねてより良寛に憧れていた虚子先生は、二度目の来町をされました。現在の俳句会(渚)の前身「涛声会」の同人達は耐雪さんと共に良寛堂を拝観参詣して歓迎会を石井町の「ホテイ屋」旅館で開きました。

耐雪さんの家の裏山には「三角荘」という珍しい別荘がありました。耐雪さんに招かれた人達は、その天井の板に画や書を描いておられます。三角荘の名の通り天井板

も屋根も部屋の形も、畳も囲炉裏も湯を沸かす鉄瓶も三角でした。

この別荘は、現在尼瀬の「くるまや」さんに保存されております。天井板の三角部分は、一部昭和三十六年の大水害の時、流されたものを拾い集め、修復されたもので、足りない所があつたそうです。

耐雪さんの御子息、恒一さんの話によると、虚子先生は、佐藤家へ二度来訪されたが、二度とも大根を持参され、大根下ろしを作ってくれるよう耐雪さんに頼んだそうです。耐雪さんは、虚子先生に「大根なぞは、この町にも良いものがたくさんあります。」と大笑いされたそうです。

この時、残された虚子先生の俳句が、何点かこの町に保存されております。そして耐雪さんの交友の中で作られた俳句『良寛の日向ぼこりや耐雪も』は、耐雪さんの家に大切に保管され、特別展の時には、快く貸し出されております。この他耐雪さんを訪れた画家や

書家、俳人は数多く、特に良寛堂建立の時中央の文人にも働きかけ協力をしてもらいました。

来る人は、温かく迎えようという姿勢は、経済力だけでなく、耐雪さんの心が広がったからでしょう。当時の出雲崎には耐雪さんのような人が何人かおられたようです。こういう人達を土地の人も世間の人も「ダンナ様」と敬称をもつて呼びました。ダンナ様とは金を多くもっている人でなく、困った人の面倒を見たり、文学、芸術に理解を示した人のことをいうのです。

昔は、ダンナ衆と金持ちは、はつきりと区別されていたようです。



平成十五年度

各グループ活動事業計画

妻入りの街並景観推進協議会の総会が六月に行われ、年間の事業計画を次のように決定しました。今年度の各グループの事業計画は

Aグループ 長谷川 隆
一 空家・空地調査

前回の調査から五年程経過し、街並全体の様相も変わってきたので、今年度は、街並全体の現状を把握したいと思います。

二 先進地視察

街並がきれいに整備されているところ、地域おこしを一生懸命行っているところを視察にいきます。

Bグループ 遠藤 良法

一 おもしろ看板の設置

各町内に一枚この看板を設置し、出雲崎の昔話を住民、また散策に訪れた方が楽しく、おもしろく妻入りの街並を歩くことができるようにとの趣旨で今年度も三枚程度の看板を製作し、設置を予定しております。皆様が知っておられる昔話がありましたら、お聞かせいただければ有難いと思います。

二 関係団体意見交換会

昨年度は、意見交換会を実施しなかったため、今年度は、積極的に各団体との意見交換会を開催したいと思います。

Cグループ 石井 弘

一 かわらばん（妻入り）を今年

も三回発行したいと思います。四月、八月、一月の発行を予定しております。皆さんも身近な話題がありましたらお知らせ下さい。

二 歴史の道ウォークを教育委員会との共催で八月二十四日に実施します。今年は、町で第一号の登録有形文化財となった「みよや」さんの二階「鍔絵の間」を見学させていただく予定です。

三 今年度は、プラントー木枠の製作は、休止いたしますが、補修、壊れたプラントーの回収を行いますと思います。ご希望の方は事務局までご連絡下さい。

あとがき

【糞害】に【憤慨】

野鳥の糞害、困ったものです。折角の景観の足元が台無しです。降り続いた梅雨の期間は、雨が時折、糞を綺麗に流してくれていましたが梅雨明け以降は、それとて期待薄です。毎年の事ですが近年は少し酷すぎるように思います。テトラポッド上もそうです。

野鳥は餌が多いと繁殖力を高めると聞きます。鳥や鴉が殖えないように取り敢えず『残飯』や『魚のガラ』などを与えないでもらいたいと思っています。

記事掲載の通り新年度を迎え役員が一新されました。昨年十月、鈴木豊吉会長が急逝された事により生じた空白が、漸く正常に復する事になりました。今後は、新役員を中心に、従来の活動に新しい視点を組み入れ街並景観保全活動を進めます。皆様の変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

羽黒町 佐々木 貞治

推進協議会今年度の顔ぶれ

No	氏名	性別	住所	摘要
1	女柳 勝治	男	尼瀬	
2	小田野 一男	男	稲荷町	サブリーダー
3	武士 俣 武	男	岩船町	
4	佐藤 直志	男	石井町	
5	三輪 浩作	男	石井町	サブリーダー
6	磯木 直樹	男	石井町	
7	高島 藤男	男	羽黒町	
8	福井 熊太郎	男	鳴滝町	
9	小林 保男	男	鳴滝町	
10	野口 美栄子	女	木折町	
11	石井 弘	男	木折町	リーダー
12	岡田 幸作	男	井鼻	
13	磯野 猛	男	住吉町	
14	曾根 良子	女	羽黒町	サブリーダー
15	相沢 佳子	女	稲荷町	
16	大谷 茂	男	別ヶ谷	監事
17	村上 聖和	男	羽黒町	
18	磯木 ヨシエ	女	石井町	
19	大矢 久幸	男	羽黒町	
20	遠藤 良法	男	羽黒町	リーダー
21	細木 勝子	女	井鼻	会計
22	長谷川 隆	男	木折町	リーダー
23	佐々木 貞治	男	羽黒町	サブリーダー
24	納谷 稔	男	川西	
25	渡辺 常侃	男	井鼻	会長
26	村越 隆夫	男	住吉町	副会長
27	小林 等	男	鳴滝町	サブリーダー
28	小林 八重子	女	井鼻	
29	高坂 一弘	男	羽黒町	
30	関根 一祥	男	石井町	副会長
31	宮下 登一	男	尼瀬	
32	佐藤 昭四郎	男	坂訪本町	監事
33	松永 透	男	乙茂	

☆は、地区推薦委員